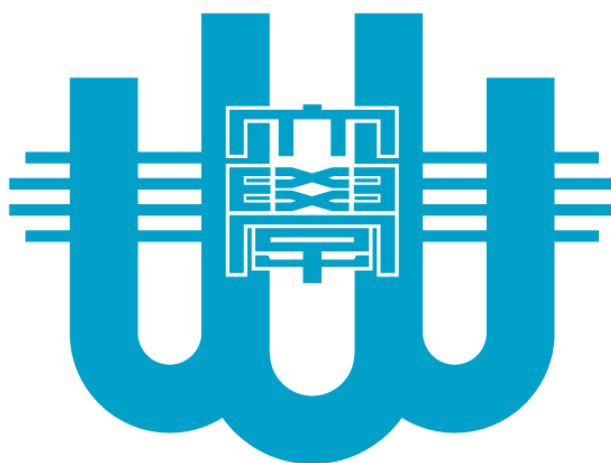


令和5（2023）年度東京純心大学自己点検・評価に関する
第三者委員会報告書



令和6（2024）年6月

東京純心大学

はじめに

令和 5(2023)年度の「東京純心大学自己点検評価書」に関する第三者評価結果を取り纏めた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和 2 (2020) 年度から 2 年間、書面での開催となっていたが、今年度も昨年度に引き続き対面での開催となった。外部委員の先生方には、ご多忙にもかかわらず資料にお目通しいただき、また貴重なご意見等を頂戴し、心より感謝申し上げます。それらの一つひとつを大学機関別認証評価と同様にしっかりと受け止め、本学の発展に向けて着実に進みたい。

本学は、平成 30 (2018) 年度から認証評価機関の一つである財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価とは別に、外部有識者 3 人（今年度は大学教授、大学職員）からなる第三者委員による独自の外部評価を導入した。

これは、大学全体における自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するとともに、諸活動の改善・改革を行い内部質保証を充実させる取組みの一つである。また、近年の私学を取り巻く環境の変化への対応は、自学のみでは非常に厳しく、見識ある外部有識者からの意見を頂戴し、変化に柔軟に対応するよう舵を切っていく。

2024 年 3 月

東京純心大学 自己点検・評価委員会
委員長 増田 光

I. 令和5（2023）年度第三者委員会委員

大澤忠廣委員（ヤマザキ動物看護大学事務局長）

奥村高明委員（日本体育大学児童スポーツ教育学部教授）

佐藤晴雄委員（帝京大学教育学部長）

II. 第三者委員会実施概要

実施日時：2024年2月24日（土）14：00～16：00

会 場：東京純心大学 第一会議室

当日スケジュール

時間	項目	概要
14：00～14：05	開会挨拶	理事長、学長
14：05～14：10	委員紹介、出席者紹介 2023年度自己点検評価書について	概要説明
14：10～14：25	基準1：本学の使命・目的等	概要説明と質疑応答
14：25～14：40	基準2：学生	概要説明と質疑応答
14：40～14：55	基準3：教育課程	概要説明と質疑応答
14：55～15：10	基準4：教員・職員	概要説明と質疑応答
15：10～15：25	基準5：経営・管理と財務	概要説明と質疑応答
15：25～15：40	基準6：内部質保証	概要説明と質疑応答
15：40～15：50	独自基準	概要説明と質疑応答
15：50～16：00	委員による総評	
16：00	閉会挨拶	副学長

II. 第三者委員による評価

（1）質疑・参考意見等

基準【1】本学の使命・目的等

【参考意見等】

・今後は看護学部だけになる。看護師は、キリスト教がルーツになって生まれていることから、建学の精神をもっと前面に打ち出してよいと思った。

教育の理念は簡単に変えるものではない。生命を持つものはかけがえのない存在であるということで、キリスト教の理念がベースになっている。そのことをふまえビジョンを考えれば、より強化できると思う。

基準【2】学生の受入

【参考意見等】

・ 今後は看護学部のみになるが、周知をしっかりと行っていけば、学生の確保は十分可能である。様々なPRの方法があるが、大学入試に関しては、SNS、YouTubeなどが影響すると言われる。ホームページや大学案内といった公式なものよりもそれらによって受験者数が変化することを耳にする。今後はそのようなPRについても検討されてもよろしいかと思う。

【回答】

・ 2年前に定員数が80名になったが厳しい状況にある。年内受験の傾向があり、特に一般選抜は志願者数が減っている。令和6年度入試では、総合型選抜の回数を増やしたり募集定員数を増やしたり、学校推薦型の指定校を拡大したりしたことで、年内入試で一定数の学生確保ができ、一般選抜で定員の80名を確保できていると思っている。

実際には、実質倍率がなかなか上がらないというところがある。SNSやYouTube等での動画配信等も含めて、広報の委員会の方でもさまざまに検討している。そういったところを含めながら学生の募集活動をしていきたい。

【参考意見等】

・ 本学（ヤマザキ動物看護大学）では学生確保のために「母校訪問」を行っている。学生には「学校の現実を直接話してきて」とお願いする。これは効果がある。在学生をパイプにして、母校に新たなニュースを、可視化されたニュースをどんどん流していくとよい。

オープンキャンパスは、学生が取り仕切っている。学生同士（学生と生徒）の会話というのが効果的であると思っている。

【回答】

・ 学生募集に関して、本学でもいくつか取り入れているところもあるが、まだまだ足りないところもあると認識した。本学の特徴をどうアピールしていくかという方法に関しても、引き続き努力して工夫をしていきたい。

【参考意見等】

・ 看護学科に来たい、看護師さんになろうっていう人はどんな人だろうか。

子供が好き。人が好き、人をケアする、助けるのが好きな人だと思う。その人たちはどんなことに喜びを感じるのかと聞いたら、人を助けたり、人をケアしたりというところに喜びを感じる。

そうやって考えたときにアドミッションポリシーを見たらちゃんと書いてある。他者と共感できるとか、人間を尊重できるということが、おそらく大事なんだろう。

看護師さんというのはキリスト教をルーツにしている。入学案内や各学部紹介で、そういったところをアピールしたらよいと思う。

基準【3】教育課程

【質問】

・ アセスメント・ポリシーについて、記載されていないようだが、いかがか。

【回答】

・アセスメント・ポリシーは入学時、在学中、卒業後という区分において評価指標を設定している。アドミッションポリシーに関しては、入試委員会と基礎学力支援センターで検証している。教育課程については、学務委員会とIRを中心に検証している。

今後はアセスメント・ポリシーが目立つように記載するようにする。

【質問】

・IRは独立した組織か。

【回答】

・IR課とIR委員会がある。IRがデータを収集し分析を行っている。その結果をIR報告会、あるいはIR委員会で報告している。

【質問】

・教員の評価もIRで行っているのか。また、教員の評価は、学生は見られるか。

【回答】

・教員評価に関しては、両学部長が評価を行い、学長に報告するというシステムになっている。特に公開はしていない。

【参考意見等】

・本学（ヤマザキ動物看護大学）では、教員の評価を2人の監事が行っている。監事は理事会、評議員会で報告する。

参考になるかわからないが、教員同士では聞けないことも監事にはできるはずである。監事にはもう少し教員の中に入って欲しいと思う。

基準【4】教員・職員**【質問】**

・純心大学には、教授会の他に委員会がいくつくらいあるか。

【回答】

・常置委員会と臨時委員会、その他にも付属施設のセンターとの運営会議もある。両学部それぞれの実習、看護教育実践研究センターとかこども教育実践研究センター、そして他にも国試対策とかのハブ組織もある。

【参考意見等】

教員がFDに関して研究活動に関する希望書、予算書を出せるので、教員が自主的にFD活動を行うことができた。比較的手を挙げる人が多かった。結果的にそれが研究活動にもつながった。

【質問】

・「しゃべり場」がとてもよい。これまでにどのような話があったか、聞きたい。

【回答】

・両学部ともに、前期1回と後期1回、学部の学年を超えて各学年から2名程度の学生が集まり行っている。

・これまでに出了話としては、入学した1年生が「勉強の仕方をどうしたらよいか」と尋ねると、上級生がいろいろなアドバイスをしたり、課外活動、学生の交流の場のような時間が持てるとういといった声があったりした。

・看護学部においては、保健師課程の選抜試験に向けてどうしたらよいのかということ、いろいろな疑問だけではなくて、教員に向けての意見も上がっていた。

・現代文化学部においては、学生同士の絆がすごく強い。仲が良いだけでなく、つながっている。残っている学年が減っていくが、良い日を過ごしていくことについての提案があった。

【参考意見等】

・SDについて、本学（ヤマザキ動物看護大学）は小さな大学なので、他の学校の職員との交流はないことから、他大学と合同でSDを行った。外に出て、「おやっ」と感じとることがあり、職員の意識が変わったと思った。外を見た人からの意見があれば委員会とか縮小できるのではないか。

・FDとSDは、そもそも違うと思うが、その学校にあったSD、その学校にあったFDをやるのがよい。

基準【5】経営・管理と財務

【質問】

・認証評価において、財務について改善報告書を出すようにということだが、どんな計画を考えているか。

【回答】

・改善報告書については、中期事業計画の改定の年にあたることから、中期事業計画の中に財務状況とその改善方策について盛り込んだ形で中期計画を策定するようにということであった。

当法人の人件費比率は非常に高い。そのことは、文部科学省、高等教育評価機構からもかなり指摘された。人件費比率を下げの方策として、「定年等により退職する常勤教員の後任は非常勤で対応する」こととした。

基準【6】内部質保証

【参考意見等】

・大学評価については経験から、よくわかるのは自己点検評価書や資料からでなく、現地調査からである。

【回答】

・大学評価において、学生を評価して褒めていただくことが非常に大切だと思う。現代文化学部の学生には自由に述べるように、普段通りでよい、君たちは素晴らしいんだからと送り出した。

独自基準

【参考意見等】

・「こどもの国のクリスマス」に参加した。このイベントはクリスマス会を行うことが目的ではなく、地域の家族の成立を目的にしていると感じた。

どのような学生を育てているのか、どのような学生が育っているのか、イベントのそれぞれの場面に結集されていると思った。これからもこの大学の歴史を繋げていくことが大事だと思う。

看護学部だけになることで気をつけなければいけないことは、この大学の歴史と違ったもう一つの大学ができあがってしまうということである。

「純心絵本学などの地域貢献講座は看護学部における教養教育の事業の中で引き継ぐ」ということが書かれているが、継承されていくのは「純心絵本学」ではない。文化や実践が継承されていくことが大切と思った。

【参考意見等】

・八王子という地域に純心をどうつなげていくか。純心の建学の精神の中で生まれる看護師は、他と違った看護師さんが育成されていると思っている。

特記事項（「高大連携事業」「基礎学力支援センター」「アドバイザー制度」）

【参考意見等】

・推薦型入試の入学の割合が高くなり、一般選抜が減ってくる。その中で、基礎学力支援センターの役割が大きくなると思う。そのあたりに力を入れていただきたいと思う。

（2）総評

（大澤忠廣委員）

総合評価適合

令和5年度自己点検評価書評価項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについては各評価項目ともに高く評価されます。

Ⅲ. 基準2. 学生の受入れについては、アドミッションポリシーにそった入学者受入れ実施については、前年度の受入れ実績を検証して、各種委員会においても十分な検討を重ねて実施されており評価できます。

一般選抜区分についても、さらなる改善をはかって実施されており、広報委員会等を組織して立案計画、実施、評価を行い大学が求める学生像や、入学選抜方針・学生像は十分に反映されております。

特にIR課の学生の学修状況、資格取得や就職状況、学生の意識調査、アンケート調査等における結果を学部、各委員会、教員で共有して分析改善して教育内容・学修指導に展開していることが評価できます。

また、学生募集においても、大学のホームページや高校訪問・オープンキャンパス・学校説明会・個別相談をツールとして広く利用されており、進学媒体も整備されており、

令和5（2023）年入学定員80人に対して、入学者78人（98％）であり定員を充足することに至らなかったことについては、IRでの分析結果に基づく累積するデータの分析と検証にもとづき学生確保の企画・組織体制の整備を構築し、学外における可視化された純心大学の建学の精神、使命、目的を広く公開してさらなる情報発信強化に努められることで、可視化され大学の方針が高く評価されることを確信します。

（奥村高明委員）

「基準1. 使命・目的等」について、キリスト教の精神に基づく人格教育を施し、有為な人材を育成しようとする使命・目的を、大学及び各学部学科の目的に反映させ、大学の個性と特徴を明確に明文化している。使命・目的及び教育目的は、様々な媒体において明示され、三つのポリシーや中期事業計画等にも反映され、教育研究組織の構成との整合性も保たれている。

「基準2. 学生」について、学生の出身校、重点地区などへの訪問活動、オープンキャンパス、ホームページのリニューアルなど適切な手立てで学生数確保に取り組んでいる。純心大学には子供が好きで、他者とのコミュニケーションに優れた学生が集まる傾向があるので、この傾向を検証し、それを生かした学生募集に取り組むことが望まれる。学生の自己評価とアドバイザーの他者評価を通した学習支援は個別最適化を図る取り組みとして評価できる。

〈優れた点〉

現代文化学部こども文化学科の「協働」「他者とのコミュニケーション」、看護学部看護学科の「共感」「一人間を尊重」など、大学全体の目的を踏まえたアドミッションポリシーが制定されている。

「基準3. 教育課程」について、カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程が編成されている。教授方法の工夫・改善についてはFD・SD委員会だけでなく学務、図書館などとも協働しながら、リフレクションシート、成績、授業アンケートなど具体的なエビデンスをもとに工夫改善に努めていることは評価できる。アセスメント・ポリシーをもとに教育課程や科目など異なるレベルで検証し、学習成果や評価、指導改善に活用していることは評価できる。

「基準4. 教員・職員」について、〈優れた点〉

教員と職員の連携が容易で機動力に優れている特性を生かし、SNS リスク研修など、時代の変化に即応したFDを実施していることは評価できる。特に「学生FD」活動として2021年度から「しゃべり場」を実施しているが、すでに十分定着し、教員や職員の意識の共有や研修につながっている点は高く評価できる。

「基準5. 経営・管理と財務」について、財務運営の確立の改善が求められているが、令和5年度も教育活動収入および教育活動収支差額が目標を大幅に下回っている。中学校・高等学校における特待制度の導入や高大連携を柱として策定した対処方針をもとに、財務的な面での中期事業計画の見直しを含めた中長期的な実践が求められている。

「基準6. 内部質保証」について、大学運営協議会及び自己点検・評価委員会による内部質保証の組織体制を整備するとともに、毎年自己点検評価書を作成し第三者委員会の外部委員から

の評価を受けるなど、学内外による質保証を担保した自己点検は評価できる。

大学が独自の基準について、看護の誕生と深く関わりのあるキリスト教の歴史や純心大学の伝統を踏まえた上で「純心のこころ」がより広く学生や地域に浸透するような実践が求められる。「キリスト教文化研究センター」「こども教育実践教育センター」「看護教育実践教育センター」「地域共想センター」の連携も含め大学設置の意義に立ち返ったカトリック的人類愛に根差した研究と普及活動が行われている点は評価できる。実践の評価については、参加人数等の量的な結果だけでなく、観察等によって得た質的なエビデンスを蓄積することも重要である。

〈優れた点〉

「第 20 回純心こどもの国のクリスマス」では地域住民の家族の成立、実践的な現場を通した学生の成長など大学の存在意義にも関わる多面的な発展が見られた。

(佐藤晴雄委員)

学生数減少により現代文化学部の学生募集停止は残念だが、財務状況など考えれば、やむをえない対応だと判断できる。ただし、小規模化が進む過程で看護学部学生の人的交流が減少していくことが予想されることから、その交流拡充のための創意工夫が強く求められるだろう。なお、学生募集については様々な工夫と改善が図られていることは高く評価できる。

今後、学生募集について看護学部の学生充足率を高めるための工夫が求められ、単学部になった場合には看護系列の大学として強く外部に訴えるために、魅力ある訴求点を検討していくことが必要になると思われる。たとえば、看護学部には新たな専門的人材を養成する学科やカリキュラム体制を築くことも、そう遠くない将来に検討されてよい。さらに、高校の推薦枠を拡充することも続けて検討されたい。

カリキュラム・ポリシーは学部学科毎に要領よく示され、教育課程は同ポリシーにそくした編成がなされている。ディプロマ・ポリシーも両学部の特色にふさわしい記述になっているが、看護学部看護学科のポリシーには、現代文化学部こども文化学科にあるようなリード文の記述があってもよいだろう。

学生支援・授業支援などについて細かな工夫がなされ、その意味で高く評価できるが、学生の立場からはそうした支援が窮屈だと受けとめられることもあり、教員の立場からは負担が大きいと捉えられることもある。本学の学生と教員がそう捉えるかは別だが、学生が窮屈に感じず、教員が余計な負担感を持たないような配慮も検討されてよいだろう。

なお、現代文化学部の教員が今後も意欲的に勤務を継続できる配慮が不可欠であり、このことは教員以外の職員についても同様に言えることである。

内部質保証については様々な点で創意工夫が図られ、質保証を確実にしていると評価できる。

全体的にみて、様々な改善の取り組みに真摯に向き合い、教育をはじめ研究体制や大学管理など多くの点に配慮がなされ、大学の質的向上を図ろうとする姿が見出される。

(3) 総括

他の二人の委員による総評を踏まえても、各基準について高く評価できるものと判断する。

「基準1 使命・目的」は建学の理念にそった内容とされており、改善の工夫を読み取ることができるが。特に、両学部の目的や特色についてはカトリック精神に基づく記述になっている。同時に、人口減少や多様性の考慮などの「変化への対応」もなされている。

(今後の課題)大学がより小規模化することになることから、特に現代文化学部の学生に対する配慮により多くの工夫が求められ、同学部学生が卒業した後には看護学部学生には他大学との交流などを活発化し、その視野を広げるように工夫が必要になる。

「基準2 学生」については、学生募集の工夫が見られるものの、残念ながら現代文化学部にについては充足率が低いため令和5年度からは募集停止になったが、経営面を考慮すれば致し方がないものと思われる。教育については、奥村委員が「学生の自己評価とアドバイザーの他者評価を通じた学習支援は個別最適化を図る取り組みとして評価できる」と指摘し、また大澤委員が「IR課の学生の学修状況、資格取得や就職状況、学生の意識調査、アンケート調査等における結果を学部、各委員会、教員で共有して分析改善して教育内容・学修指導に展開していること」を評価しているように、創意工夫が施されているところである。

(今後の課題)総合型選抜入試の導入に伴い、基礎学力の向上が課題視されるが、学習者が多くない現状を改善していく必要がある。

「基準3 教育課程」については、奥村委員が「カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程が編成されている」と指摘しているところであり、改善のために尽力している様子がうかがわれる。

(今後の課題)現在は、3ポリシー+アセスメント・ポリシーが求められていることから、アセスメント・ポリシーに関する評価記述をもっと大きく取り上げた方が望ましいと思われる。

「基準4 教員・職員」については、小規模校であることの良さとして、「教員と職員の連携が容易で機動力に優れている特性」を活かしたFDに取り組んでいることは評価できる(奥村委員)。また、授業アンケートの回収率を高めるためにGoogle Formsから紙媒体に変更した改善は評価できる。

(今後の課題)スタッフによる学生対応の一つとして、学部生による下級生支援方法としてSA制度を導入することも考えられる、特に小規模校化した場合には学年間の縦断的交流によって人間性を高めることが期待される。

「基準5 経営・管理と財務」については、学生数の減少によりその改善が大きな課題になっているが、今後も様々な角度からの工夫が求められる。

(今後の課題)特に現代文化学部所属の教員の処遇が喫緊の検討課題になるものと思われるが、同学部教員がやり甲斐を持ち続けて勤務できる態勢を整えることが大切になる。

「基準6 内部質保証」については、大澤委員が既に指摘したところであるが、IRなどを活用した自己点検・評価に努めている。

以上